

(1990年3月23日第3種郵便物認可)(毎月1日発行)1994年 1月1日 全国民闘連ニュース 第84号(1)

全国民闘連ニュース

第84号
1994年
1月 1日

年間購読料

3000円

発行 民族差別と闘う連絡協議会

連絡 ☎543 大阪市天王寺区東上町8-36 ノーリンビル401号 Tel 06-775-2185 Fax 06-775-2160
☎210 川崎市川崎区桜本1-8-22 Tel 044-288-2997 Fax 044-287-2045



民闘連 20年

民族差別撤廃運動の

さらなる発展をめざして

民族差別と闘う連絡協議会

ベ チョン ド

会長 裴 重 度



年頭にあつてのご挨拶を申し上げます。

二十一世紀を目前にして、世界状況は混沌かつ激動をしています。世界を二分していた冷戦構造が崩壊し、世界各地で起こっている民族紛争がどのような形で解決されていくのか、他人事でない関心を抱かざるをえません。

“人間らしく生きたい”という想いを基に、かくしていた民族をさらし、民族として生きていこうとしてきた「民闘連」の歩みもまた、こうした大きな世界の潮流のなかに位置しているものと思います。

そのような意味においても、在日韓国・朝鮮人が日本においてどのように生きていくのか、その主体的生き方が今後さらに大きく問われてくることでしょう。

世界的キーワードとなっている「平和・人権・環境」を民闘連としてもにらみつつ、在日の生活点での実践と闘いを重ねながら、今年も歩みをすすめていきたいと思います。

そして、今年は民闘連結成から20年目を迎え、横浜において大会を開催します。

みなさまの大いなるご支援、連帯をお願い申し上げます。

民族差別と闘う福岡連絡協議会

チョン キ マン

代表 鄭 琪 満



昨年2月に発足した福岡民闘連。初めての1年は収穫の多い年でもあり、また課題を多く抱えた年でもありました。

様変わりしていく在日の状況において旧態依然とした闘いではなかなか変わらない、変わろうとしない中に一石を投じ、在日韓国・朝鮮人と日本人が真に共に生きる多文化共生社会の基盤を作って行かなければなりません。それはお互いにとって必要な事であり未来に向かって扉を開くものだ、そう肝に銘じた船出であります。

発足後すぐに取り組んだ食品宅配会社の民族差別事件の解決は、ひとつの指標となり、あらゆる民族差別の撤廃運動が急務であることが確認されました。

行政に対しての“差別撤廃、人権擁護”の要望書に拠る交渉は、今年に入り若干の追い風も吹いてきましたが、腰を据えて取り組んで行かなくてはなりません。

民族差別の根幹とも言うべき“新日本法規事件”は、出版者側に何の差別に対する認識がないまま交渉は年を越しました。共生社会をこぼむこの事件、福岡発で全国の皆さんと共に闘う覚悟です。

民族差別と闘う広島連絡協議会

オソドリ

代表 呉成徳



89年8月、広島修道大学で起きた差別落書事件、10月パチンコ疑惑から広がった民族学校生に対する暴言暴行事件を端に、民族側当事者と日本人が集まり、民闘連広島を結成、91年広島の民族差別と闘う会と改名、93年6月広島民闘連と2度の名称変更をしました。

昨年は、会結成4年で全国大会・全国研究集会を広島で開催することができ、地元の方はもとより、県外の方々にも多くの参加を頂き、ありがたく思っております。広島で初めての在日韓国・朝鮮人を取り巻くトータルな研究集会という事や、全国で活動されている多くの方々から来られるという事で、多くの関心を集めました。何とか無事終わらせる事ができ、一同ホッとしているところです。

さて、広島の地に於ても多くの課題を抱えての94年のスタートとなります。市・県に於て未だに教育基本方針すら出しておらず、学校現場では差別事件が今も多く発生しています。地域子ども会活動もまだまだ時間がかかるようです。しかし、3年間の交渉の末、広島市は障害者・高齢者・母子に対しての無年金者に対し、94年度からの「給付金」という形で、それぞれ3万6千円・1万円(母子は未定、

8千円ぐらい?)を支給する事で内定し、会との交渉も、12月末から開始しました。今年も忙しくなります。

また、今年から学習と啓発をする機関(学習センター)をスタートする事になりました。運動の広がりを模索する年になりそうです。

民族差別と闘う兵庫連絡協議会

ファンクンナミ

代表 黄光男



昨年兵庫民闘連は、兵庫県下、5つの自治体に要望書を提出した。1月11日に芦屋市に要望書を提出しましたので、合わせると6つの自治体になる。西宮と芦屋は、その市の考える会と保護者の会が主体的に取り組んでもらっているので兵庫民闘連としては、兵庫県と神戸市と尼崎市の3つが受け持ちとなる。

それらの行政交渉は、毎年行っているのですが、いっきに取り組みが進むということではないが、去年よりは今年、今年よりは来年と積み重ねの話合いが少しずつできているのではないかと思います。

これらは、考える会の先生方、保護者の会のオモニたちと三者が一緒になってこれまで取り組んできた成果である。

また、兵庫民闘連は、在日韓国・朝鮮人の若い世代の組織作りにと、ヤングコリアサークル(YKC)を発足させ、昨

年夏に合宿をした。これは、高校や大学を卒業し、社会に出た人たちが、気軽に集まれる場を保障するためにつくられた。

ふだんは、日本人のまわりで暮らしていても、在日としての熱い思いは、みな がしっかりとっており、これを継続して、他にないこんなサークルがあってもいいのではと思えるものにしたい。

そして、兵庫では、昨年2件の民族差別事件がおきた。一つは、キリンビールの尼崎工場。もう一つは、尼崎市交通局。これらは、今同時並行で事実確認会が行われている。どちらも職場の中で、朝鮮人である社員(職場)に対し、同じ職場の人間が民族差別発言をおこなっているのである。

今、差別を受けた人と、同じ職場で彼等を支える人たちとも交流が広がり、民闘連に協力をしていただいている。

兵庫民闘連は、事務所もなく専従もなく、みな仕事を抱えながらの運動をしている。このスタイルがどこまで通用するかはわからない。

しかし、今運動の中で知り合えた人たちとのつながりを大切にしながら、一歩づつ歩んで行きたい。

私たちの求めているものは、より多くの人たちとの出会いや、つながりでありその中で生まれる差別と共に闘う意識ではないだろうか。

民族差別と闘う大阪連絡協議会

お い つ

代表 洪 仁 成



今年は、マイノリティの交流と同胞保護者の全国組織化に向けて頑張りたいと考えています。

去年は、国際先住民族年で、さまざまな所で出会いがありました。アイヌの人たちとの出会い、沖縄、アメリカ、オーストラリア、アジアのマイノリティの人々との出会いなどがありました。今年は、出会いの年から交流の年にしていきたいと思います。そして、交流の中で二世、三世、四世の同胞がなにかを学び感じ、また活動家は感性をみがいてほしい。同胞保護者は、これまでもそうであったように、どんどん交流を深め、点在している保護者とつながって行きたいと思います。全国に元気の良いオモニ、アボジはたくさんいると思います。そういう同胞を結集して、自分たちの子どもが日本の学校で、のびのびと生活できるように、また、日本人の子ども達と共に学び共に生きるには、どうしたらいいのか語り合いたい。そのような交流が民族差別をなくす力になっていくと思います。

本年もみなさまのご協力をお願いします。

民族差別と闘う神奈川連絡協議会

私 チョン チョン

代表 金 宗 濤



会員の皆様方に新春のお喜びを申し上げます。

昨年、裴重度氏の全国民闘連の会長就任にともない、その後任として選任され神奈川民闘連の代表に就任いたしました。今後は、前任者の後を継ぎ日本人側代表三浦泰一と共に民闘連運動の拡充、組織のさらなる発展に努めてまいります。また、民闘連におきましては発足20周年を迎える記念すべき大会となります。昨年の政権交替もあり日本社会は大きく変化しようとしています。私達もこの変化をとらえ、各地で実践・交流・共闘を更に推し進め、今次の人権研究集会にこの1年間の成果を、また、未来をめざした運動展開を発表していただきたいと思います。開催地民闘連代表として、実行委メンバーともども会員の皆様の多くのご参加をお待ち申し上げます。

代表 三浦 泰一



私は、以前、この民闘連ニュースで、「日々の民族差別の現実の中で、差別によって、血を流している人々に対して応急措置をする野戦病院みたいなものが初期の民闘連の姿だ」と書いたことがあるその民闘連も、今や、新しい組織形態で出発し、取り組む課題も、「補償・人権法の実現」や、「戦後補償裁判」等、歴史的総括を踏まえた民族差別に対する体系的取り組みへと広がっている。また、当然、未だに続く日々の民族差別事象にも手を抜いていない。言わば、総合病院の形を成してきている。一方、その民闘連を支える足腰は、生活にねざした地域実践に有ることを忘れてはならない。神奈川民闘連は、これからも、そのことを大切にしたい。

世界では、今、多くの民族集団が「民族主権」主義による争いを起こしている。民闘連はこれを克服する理念を持っていると思う。それを、「民族共生主権」主義と呼びたい。

私は、1994年も、民闘連が組織的にも発展し、また運動的にも前進するための一員でありたいと思っている。

全国の民闘連の皆さん、今年もよろしくお願いします。

本名で通わせて! PART6

「親として教育学校について考える…」

昨年某大学で民族差別による集団暴行事件が起こり、ビックリさせられた。

オモニとして、アボジとして、子どもたちを学校へ通わせるのに不安はつきない。この社会で、学校で「本名」をつかうことがしんどいときがある。しかし、人間としてありのままで誰もが生きていきたい、と素朴に思うからこそ、みんな頑張っている。

しかし、相変わらず社会は「外国人は煮て食おうが焼いて食おうが勝手である」の発想から抜けきれていない。とくに、教育・学校は人間が育成されていくのに重要なところであるが、在日外国人に関しては余りにもないがしろにされている。

人権が尊重され、お互いがよりよい関係であるために、教育・学校について話し合しましょう。



3月13日[日] 開場 1:00PM 開始 1:30PM~

西区民文化センター 大会議室A

西区横川新町6-1 (JR横川駅 徒歩5分) 電話234-1960

入場カンパ[会員=500円][一般=700円]

主催=民族差別と闘う広島連絡協議会 電話082-822-1785

安芸郡海田町東昭和町5-27-101